

基礎技能「音楽」における学生の読譜力についての一考察
～ 通信教育部保育科の学生への調査をもとに ～

平松 愛子

A Study on the Reading Skills of Music
Score in “Basic Skill of Music”

～ Based on Findings from students in Correspondence Course of early childhood education ～

Aiko Hiramatsu

Abstract

I have taught basic skill music to the students, including the correspondence course, at the department of early childhood education in this college for six years, including three years as a part-time instructor. For the six years, I have recognized that each new student has different level of basic music knowledge. There are some students who studied keyboard instruments such as piano prior to entering this college and can easily complete their music assignments. However, other students never played any keyboard instruments, or cannot read music score.

If I give the same class to the students, it must be difficult for every student to gain enough knowledge and skills to get kindergarten teacher's license and the qualification of nurse for two or three limited years. Therefore, I have tried utilizing private piano lessons as a music teacher.

During the lessons, I always try understanding each student's music level and giving her or him proper assignments. It works for students who regularly attend the class. However, it is difficult to apply this way to the students in the correspondence course due to the limited interactions.

In this study, I focus on the students in the correspondence course of early childhood education and review the new student's basic music knowledge based on her or his music experience and reading skills of music score. Through understanding each student's status, I want to consider more efficient teaching method.

key word : Basic skill of music , student's music experience, Reading skills of music score

はじめに

筆者は、本学において6年間（非常勤講師時の3年を含む。）、本学保育科と通信教育部保育科の学生に対し、基礎技能「音楽」*の授業を行ってきた。そして、新入生の入学時における“音楽的な基礎知識”に大きな偏りがあると感じてきた。新入生の中には、本学入学以前からピアノをはじめとする鍵盤楽器の学習経験があり、授業内で与えた課題を難無く弾きこなせる学生がいる。しかし、楽譜を読むことすら出来ない学生や、鍵盤楽器に触れたことが無い初心者の状態で入学してくる学生もいる。

鍵盤楽器の学習経験の有無に関わらず、このような学生たちに同じ内容の指導を行ってはいけなのではないだろうか。2年間もしくは3年間という限られた時間の中で、幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得するために必要な音楽の知識や技術を、同じレベルで習得させることは、困難であると感じられる。そこで、筆者は、音楽系科目担当教員として学生一人ひとりと向き合い、決して多いとは思われないピアノ個人レッスンの時間を、有効に使うよう心がけてきた。授業内では、まず、学生の進度を把握し、個々に課題を見つけ出す指導を行ってきた。このことは、通学している保育科学生に対しては、努力可能な事であるとしても、定期的に出て指導することができない通信教育部保育科の学生に対しては、スクーリングという授業時間内で音楽の知識や技術を教えることに困難を感じているのが現状である。

本研究は、主眼を通信教育部保育科の学生に置き、学生の入学時における“音楽的な基礎知識”を、それぞれの音楽経験と読譜力の観点から調査した。学生たちの現状を把握することによって、より効率の高い指導法について検討したいと考えている。

注）基礎技能「音楽」：本学保育科においては、「ピアノⅠ」として開講されている。また、通信教育部保育科においては、「音楽Ⅰ」として開講されている。

I 研究目的

本研究は、通信教育部保育科の学生に対し、幼稚園教諭免許状及び保育士資格取得のため行われている基礎技能「音楽」（音楽Ⅰ）の授業内容について研究するものとする。また、3年間で“音楽的な基礎知識”の中からの、読譜力及び鍵盤楽器の技術習得を抽出し、効果的な指導法を検討することを目的としている。

まず、第一段階として、通信教育部保育科の学生にアンケート調査を行い、学生の実態を把握し、考察する段階までに取り組んでいる。

II 研究概要

1 研究対象

平成21年度通信教育部保育科入学生のうち、夏期スクーリングにおいて「音楽Ⅰ」を受講した学生と、平成20年度以前に入学した学生で、同じく夏期スクーリングにおいて「音楽Ⅱ」を受講した学生、計75名を対象とした。

2 研究時期

平成 21 年度通信教育部保育科夏期スクーリング開講期間（平成 21 年 7 月 21 日～ 29 日）

3 研究方法

無記名によるアンケート調査*を実施し、その結果から考察を試みるものとする。

4 調査項目

- (1) 本学入学前におけるピアノ学習経験の有無及び習熟度
- (2) 読譜に関する意識
- (3) 歌の覚え方
- (4) 音楽経験の有無

注) 質問紙は、平成 19 年に全国大学音楽教育学会中部地区学会が作成した「音楽経験および認識度調査」を使用した。

Ⅲ 研究内容及び考察

1 本学の現状把握

- (1) スクーリング日数及びレッスン形態

通信教育部保育科の学生が卒業するまでの間に、スクーリングにおいてピアノ個人レッスンを受講する機会は、「音楽Ⅰ」の 4 日間と「音楽Ⅱ」の 4 日間だけである。そして、両科目とも 4 日目に実技試験を課すため、3 日間ずつ計 6 日間というスケジュールで受講することになる。

授業形態は、1 日 1 コマを配当し、学生一人当たりのレッスン時間は、平均して 15 分程度のものである。

これらを総合すると、現カリキュラムにおいてピアノ個人レッスンを受ける時間は、卒業するまでにわずか 90 分程度ということになる。当然のことながら、この時間の中で、基礎技能「音楽」の内容を教授することは不可能であるため、全ての学生に対し、個々で外部にピアノを習いに行くよう指導せざるをえない状況である。学生が確保する日々の練習時間、外部ピアノ講師の教授方法の違いなどにより、習得する技術に大きな差が出ることは言うまでもない。

- (2) 音楽系開講科目

本学通信教育部保育科における受講可能な音楽系開講科目は以下（表 1）のとおりである。

○ 表1：音楽系開講科目一覧

学 年	科目及び授業内容
1年次	「音楽Ⅰ」： ・ピアノ①…バイエル、マーチなどの基礎的なピアノ曲 ・ピアノ②…バイエル、マーチなどのピアノ曲 ※ ピアノ②へ進むには、ピアノ①の課題曲を修了していることを原則とする。 ・声楽①…コンコーネ・コールユーブンゲン等の基礎的な発声を促す声楽曲 ・声楽②…コンコーネ・コールユーブンゲン等の基礎的な発声を促す声楽曲 ※ 声楽②へ進には、声楽①の課題曲を修了していることを原則とする。
2年次以降	「音楽Ⅱ」： ・ピアノ①…バイエル、マーチなどの基礎的なピアノ曲 ・ピアノ②…バイエル、マーチなどのピアノ曲 ・ピアノ③…応用（弾き歌い曲） ・声楽①…コンコーネ、コールユーブンゲン等の基礎的な発声を促す声楽曲 ・声楽②…コンコーネ、コールユーブンゲン等の基礎的な発声を促す声楽曲 ・声楽③…コンコーネ、コールユーブンゲンに加え、子どもの歌を含む様々な声楽曲 ※ ステップアップについては、1年次の指導と同様である。
3年次	「表現Ⅱ」：音楽あそび、手あそび、器楽合奏等

各開講科目において、大多数の学生が1年次あるいは2年次においてピアノ①及び声楽①の課題を修了している。しかし、学校教育の中で培われてしまった「音楽」に対する苦手意識からか、若干名ではあるものの課題を修了できない学生もいることを忘れてはならない。なかなか課題を修了できない学生に対して、練習方法や予習・復習の手順などを導くようにはしているものの、時間的な制約もあり徹底できていないことは、今後の課題として挙げられるであろう。

また、音楽理論（楽典）の科目については、提出・添削課題となり自宅学習する科目として配当されている。学生の多くは、外部ピアノ講師に添削課題も教えてもらっているようで、筆者が添削する時点では、かなり完成度の高いレポートとして提出されている。

2 アンケート調査結果から見る学生の実態

(1) 本学入学前のピアノレッスン経験の有無及び習熟度

単位：名（%：小数点第2位4捨5入）

レッスン経験あり（ピアノ習熟度別）				レッスン 経験なし
バイエル前半	バイエル修了	ブルグミュラー	ソナチネ以上	
19 (25.3%)	8 (10.7%)	5 (6.7%)	11 (14.7%)	32 (42.7%)

この調査では、40%以上の学生が「ピアノレッスン経験が無い。」と答えている。そしてピアノレッスン経験がある学生でも、約60%がバイエル程度の初級者であることがわかった。アンケートに回答した学生のほとんどがピアノ未経験者もしくは初級者だということになる。保育者として必要な基礎技能という位置付けがなされているが、実際どの程度までピアノを演奏できなければならないのかを、入学時の学生に対してインフォメーションする必要があるように思われる。

(2) 読譜に関する意識

単位：名（%：小数点第2位4捨5入）

読譜に関して	全体：75	レッスン経験あり（ピアノ習熟度別）				レッスン 経験なし：32
		バイエル 前半：19	バイエル 修了：8	ブルグ ミュラー：5	ソナチネ 以上：11	
読めない	7 (9.3%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (18.8%)
あまり読めない	12 (16.0%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (28.1%)
少し読める	25 (33.3%)	6 (31.6%)	4 (50.0%)	0 (0.0%)	2 (18.2%)	13 (40.6%)
わりに読める	17 (22.7%)	8 (42.0%)	2 (25.0%)	2 (40.0%)	3 (27.3%)	2 (6.3%)
読める	14 (18.7%)	1 (5.3%)	2 (25.0%)	3 (60.0%)	6 (54.5%)	2 (6.3%)

この調査では、バイエル前半の初級者に、「楽譜が読めない」・「あまり読めない」と答える学生が20%以上いた。しかし、レッスン経験の無い学生でも、「楽譜が読める」・「わりに読める」と答えた学生が10%を超えていたことには驚かされた。ここで、レッスン経験の有無と読譜力とは、必ずしも一致はしていないことがわかった。ただし、レッスン経験の無い学生が、「少し読める」と答えたことと、ソナチネ以上の上級者が「少し読める」と答えたことでは、読譜力の差があるのではないかと懸念される。

(3) 歌いたいと思う歌の覚え方について (複数回答可)

単位：名 (%：小数点第2位4捨5入)

歌の覚え方	全体：75	レッスン経験あり (ピアノ習熟度別)				レッスン 経験なし：32
		バイエル 前半：19	バイエル 修了：8	ブルグ ミュラー：5	ソナチネ 以上：11	
楽譜を読む	12 (16.0%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	2 (16.7%)	4 (33.3%)	2 (16.7%)
音源を聴く	67 (89.3%)	16 (23.9%)	6 (9.0%)	5 (7.5%)	10 (14.9%)	30 (44.8%)
他人が歌う のを聴く	19 (25.3%)	6 (31.6%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	4 (21.1%)	8 (42.1%)
楽器で弾く	14 (18.7%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	6 (42.9%)	2 (14.3%)

この調査では、学生自ら歌いたいと思う歌の覚え方について、レッスン経験の有無に関わらず、大多数の学生が「CDなどの音源を聴いて覚える」と答えている。そして、ブルグミュラー以上の中級者は、「楽譜を読んで覚える」・「楽器を弾いて覚える」と答える割合が、他と比べて高かった。また、レッスン経験の無い学生や初級者の学生は、「音源を聴いて覚える」や「他人が歌っているのを聞いて覚える」というパーセンテージが圧倒的に高く、読譜して音楽を知るのではなく耳から（雰囲気から）音楽を知る傾向にあることがわかった。

(4) 学校 (小・中・高等学校) の授業での歌の覚え方 (複数回答可)

単位：名 (%：小数点第2位4捨5入)

学校の授業では	全体：75	レッスン経験あり (ピアノ習熟度別)				レッスン 経験なし：32
		バイエル 前半：19	バイエル 修了：8	ブルグ ミュラー：5	ソナチネ 以上：11	
楽譜を読む	32 (42.7%)	11 (34.4%)	5 (15.6%)	5 (15.6%)	8 (25.0%)	3 (9.4%)
音源を聴く	35 (46.7%)	8 (22.9%)	4 (11.4%)	2 (5.7%)	4 (11.4%)	17 (48.6%)
他人が歌う のを聴く	36 (48.0%)	9 (25.0%)	2 (5.6%)	3 (8.3%)	3 (8.3%)	19 (52.8%)
楽器で弾く	10 (13.3%)	2 (20.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)

この調査では、学校の授業で習う歌の覚え方について、「CDなどの音源を聴いて覚える」という人の割合が、前出(3)に比べ約半数となった。このことから、学校の授業では、教科書に掲載されている教材の音源が少ないことや、教員が生徒に聴かせる機会が少ないということが考えられる。つまり、「楽譜を読んで覚える」と答えた学生のパーセンテージが高くなり、学校で学習する歌は教科書の楽譜に従って教員とともに覚えていく傾向にあることが伺える。

(5) 学校(中学校・高等学校)での音楽経験

単位：名(％：小数点第2位4捨5入)

高等学校での「音楽」選択		音楽系クラブ等への参加			
		中学校		高等学校	
選択した	選択しなかった	参加した	参加しなかった	参加した	参加しなかった
32 (42.7%)	43 (57.3%)	10 (13.3%)	65 (86.7%)	9 (12.0%)	66 (88.0%)

この調査では、中学校や高等学校で音楽系クラブに所属していた学生は、10%程度であった。しかし、高等学校での音楽の授業を選択した学生は、40%もいることがわかる。これらの調査から、音楽経験が長い学生(音楽の授業受講者・習い事等での音楽経験者・音楽系クラブ等への参加者)でも、音楽の基礎知識が必ずしも同一化しているものではないことが見えた。

IV 今後の課題

今後の課題として、通信教育部保育科の「音楽I」受講生一人ひとりの音楽的な能力を的確に把握し、技術を伸すよう効果的な指導を行わなければならない。そして、本学入学以前の音楽経験は変えられないことだとしても、音楽をはじめ読譜を苦手だと感じている学生の苦手意識を払拭する指導法を考えなければならないであろう。

そこで、これまで音源に頼り、耳から音楽を覚えてきた多くの学生に、自力で読譜し再現する基礎的な技術を身に付けさせる指導法を模索しなければならない。また、読譜力や演奏技術だけでなく、時代背景や様式を含む音楽を理解し、楽しみながら表現することを目的とした指導法も研究課題となるであろう。

そのためには、個々の学生の学習に対するモチベーションを維持し高めていくことが重要となる。これは、学生に接する筆者の「教員としての価値観」が大きく関わってくることになり、まず、苦手意識を持つ学生の気持ちを理解することが前提とされる。そして、より多くのコミュニケーションを取ることによって、教員から学生に対する指導が徹底され、学生の理解度を認識することができると思われる。

具体的な指導法として、本学入学以前にプレスクーリングもしくは音楽におけるカウンセリ

ングを行うことによって、学生の現状を把握することができるであろう。そこで、学生の音楽経験や読譜力を知り、個々の指導が始められるように思われる。そして、教員側から定期的にアプローチする機会を作り、学習状況や進捗をチェックするようにすれば、学生のわずかな疑問にも即時対応できるのではないだろうか。

これらの指導を継続的に行うことによって、教員と学生の信頼関係を築き、学生のモチベーションを高め、学習への不安や苦手意識を払拭することにつながるのではないかと考える。本学通信教育部保育科に在籍する学生一人ひとりと向き合い、個々に合った教育を施すために、以上のような方法で指導にあたりその指導方法を探りたい。

引用文献：「音楽経験および楽譜に関する認識度調査」全国大学音楽教育学会中部地区学会（平成19年）

参考文献：全国大学音楽教育学会第25回全国大会研究発表論集 木許 隆（埼玉純真短期大学）・小川宜子（岡崎女子短期大学）「学生の音楽における基礎知識 ～ 第二部・第三部の授業を通して～」

【資料】

音楽経験および楽譜に関する認識度調査

このアンケート調査は、皆さんが大学へ入学するまでの音楽経験の中で、楽譜に関する知識がどの程度培われているのかを調査し、教員養成・保育者養成に必要な教育内容を検討する資料となるものです。

質問1-(1):

あなたは、大学入学前にピアノを習った経験がありますか。

- ① ある ② ない

質問1-(2): 1-(1)で「ある」と答えた方に質問します。

大学入学までにピアノはどの程度、弾けましたか。

- ① バイエル前半程度 ② バイエル修了程度 ③ プルグミュラー程度
④ ソナチネ程度 ⑤ ソナタ以上

質問2-(1):

あなたは、ピアノ以外に演奏できる楽器がありますか。

- ① ある ② ない

質問2-(2): 2-(1)で「ある」と答えた方に質問します。

どのような楽器が演奏できますか。※ 学校(小・中・高)の授業で取り上げられた楽器は含みません。

質問3:

あなたは、歌いたいと思う歌をどのようにして覚えますか。(複数回答可)

- ① 楽譜を読んで覚える ② 音源(CD等)を聴いて覚える ③ 他人が歌うのを聴いて覚える
④ メロディーを楽器で弾いて覚える ⑤ その他()

質問4:

あなたは、楽譜を読んで知らない歌や曲を覚えることがありますか。

- ① ない ② あまりない ③ 時々ある ④ よくある ⑤ ある

質問5:

あなたは、学校(小・中・高等学校)の音楽の授業でどのようなことを学びましたか。良く学んだものから順位を付け、記憶にないものは空欄にして下さい。

- () 歌・合唱 () 楽器演奏 () 鑑賞 () 音楽理論
() 創作活動 () 音楽史 () その他()

質問6:

あなたは、学校(小・中・高)の音楽の授業で歌をどのようにして覚えましたか。(複数回答可)

- ① 楽譜を読んで覚えた ② 音源(CD等)を聴いて覚えた ③ 他人が歌うのを聴いて覚えた
④ メロディーを楽器で弾いて覚えた ⑤ その他()

質問7-(1):

あなたの学校(小・中・高)では、学校行事として合唱コンクールや発表会等が行われてい

ましたか。

- ① 行われていた ② 行われていなかった

質問7-(2)：7-(1)で「行われていた」と答えた方に質問します。

その時に歌った曲は、どのようにして覚えましたか。(複数回答可)

- ① 楽譜を読んで覚えた ② 音源 (CD 等) を聴いて覚えた
③ 先生や友達が歌うのを聴いて覚えた ④ メロディーを楽器で弾いて覚えた
⑤ その他 ()

質問8：

あなたは、高等学校の授業で「音楽」を選択しましたか。

- ① 選択した ② 選択しなかった

質問9-(1)：

あなたは、合唱部や吹奏楽部等の音楽系クラブに所属したことがありますか。

- ① ある ② ない

質問9-(2)：9-(1)で「ある」と答えた方に質問します。

どのようなクラブに所属していましたか。

中学校	高等学校
-----	------

質問10：

あなたは、楽譜が読めますか。

- ① 読めない ② あまり読めない ③ 少し読める ④ わりに読める ⑤ 読める

質問11：

あなたは、楽譜の読み方を主にどこで覚えましたか。

- ① 小学校の授業 ② 中学校の授業 ③ 高等学校の授業 ④ クラブ活動
⑤ 習い事 ⑥ 友達に習った ⑦ 独学 ⑧ その他 ()

質問12-(1)：

あなたは、楽譜に分からない記号や標語が出てきたらどうしますか。

- ① 調べる ② 調べない ③ 気にしない

質問12-(2)：12-(1)で「調べる」と答えた方に質問します。

どのようにして調べますか。

- ① 本や辞書等で調べる ② 先生や友達に聞く ③ その他 ()

質問13-(1)：

あなたは、コードネームを知っていますか。

- ① 知っている ② 知らない

質問13-(2)：13-(1)で「知っている」と答えた方に尋ねます。

コードネームを主にどこで覚えましたか。

- ① 小学校の授業 ② 中学校の授業 ③ 高等学校の授業 ④ クラブ活動
⑤ 習い事 ⑥ 友達に習った ⑦ 独学 ⑧ その他 ()
ご協力ありがとうございました。